



今回は、柳沢浩一委員が「たまむら農業塾」を訪ねて、塾長(講師)の宇津木健司さんにお話を伺ってきました。

自分で野菜をつくりたい!

「たまむら農業塾」とは何ですか。

農業に興味がある人を対象に、栽培管理技術の習得を支援するため、町が開講している研修事業のことです。毎年4月ごろに、塾生の募集が行われています。

講師として、農業のどんなことを教えているのですか。

主に野菜づくりの基礎など、基本的な知識・技術を教えています。種をまき、苗をつくることから収穫までです。

生徒は、どのような方ですか。

多くは仕事の第一線から退いた方です。これから、楽しみながら野菜づくりをやってみたいと考えている皆さんです。ほとんどが60代の方ですが、50代の方も数人、また女性も3人います。

どんな雰囲気ですか。

22人の生徒の皆さんは、本当に和気あいあいとしています。とれたスイカを食べながら、ゆっくり世間話したり、本当に楽しそうです。

いろいろな職業の方が集まっていることが、またよいのでしようか。

議会へひとこと

議会や執行部のご理解をいただきながら、これからも農業の楽しさを伝えていきたいと思います。



こちら編集室

東日本大震災からの復興・福島第一原発事故への的確な対応を願う中、8月・9月と猛暑が続く国内では大雨・洪水・土砂崩れ・竜巻など多くの災害がありました。気候の変動を感じる昨今、防災対策の見直しや基盤の整備が重要な課題と感じています。そのような中、明るいニュースもありました。2020年に東京でのオリンピック開催が決まり、震災からの復興や経済発展の足がかりになる『希望のオリンピック』と大いに期待するものです。

さて、現議会広報特別委員会の編集も、今回の第63号が最後となりました。「愛読、ありがとうございました。見てもらえる手に取ってもらえる」議会だよりを目指して、発行の早期化に取り組み、表紙の変更や一般質問のページを見開き3人掲載にするなど、レイアウトの工夫もしてきました。いかがでしたが。次号からは、新たな議会広報特別委員会での発行となります。新体制での「議会だより」を楽しみにしてください。(石内國雄)



- 議会広報特別委員会
- 委員長 村田安雄
 - 副委員長 石内國雄
 - 委員 笠原孝一
 - 委員 柳沢浩一
 - 委員 川端宏和
 - 委員 浅石真志
 - 委員 見川武志

たまむら議会山柳

「90ぴりのゆつもの半分 傍聴者」

次回定例会の予定

12月3日 開会予定です。

本会議・委員会は、どなたでも傍聴できます

9月議会の傍聴者は **33人** でした。(男性：30人・女性3人)

